

平成30年8月 定例記者会見（報告）

1 日 時 平成30年8月27日（月）午後2時40分～午後3時10分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、NHK、河北新報、毎日新聞、山形新聞、山形テレビ、
山形放送、米澤新聞社、読売新聞、置賜日報デジタル

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 渇水への対策と市内で確認されている被害などあれば教えてください。まれに見る少雨と言うことですが、市長の所感はいかがですか。
- (2) 9月が主会期となっているメモリアルフェスタの概要と抱負をお聞かせください。上杉鷹山入部250年の来年は、何かイベントを予定されていますか。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、平成30年8月の定例記者会見を始めさせていただきます。この度は、二つ質問を頂戴しております。初めに、市長からお答えさせていただきます。

○市長

はい。一つ目の質問は、「渇水への対策と市内で確認されている被害などあれば教えてください。まれに見る少雨と言うことですが、市長の所感はいかがですか」というものであります。渇水対策につきましては、すでに報告をしていると思いますが、7月には梅雨がなかったという状況の中で、降雨が本当に少なかった訳であります。水田に対する農業用水の必要性や今後のダムの貯水量を考えた場合に、非常に厳しい状況にあるということは、7月の後半から判断しておりました。8月1日には渇水対策の関係課連絡会議を開催し、上下水道部では8月6日に対策本部も立ち上げておりました。市民の皆様には、広報車を通じて、節水の広報活動を行ってきたところであります。しかしながら、降雨量が少なかった訳でありまして、8月6日には、笹野浄水場への取水制限が行われております。ただ、現在のところ、水道水の供給には支障は出ていないという状況であります。

その他の対策としまして、（県）笹野浄水場（市笹野配水池）からの県水供給の区域を、（市）館山浄水場からの給水区域拡大を行っております。今のところ影響が出ないよう、努力をしているところであります。しかし、小学校のプールと市営プールにつき

ましては、中止とさせていただきます。小学校のプールは、8月13日から夏休み期間中のプールの解放を中止、また2学期以降の水泳授業も中止とさせていただきます。市営プールにつきましても、8月10日から使用中止ということで、8月9日をもって今期の営業を終了しております。ここ2、3日降雨があり、ダム貯水量増加を期待しておりましたが、それほどダムへの流入は多くなっていないようです。綱木川ダムにつきましては20%を少し超える段階で、それほどプラスにはなっておりませんし、水窪ダムにおきましても、貯水量が17%台ということで、今後の降雨量がどれほどあるのかが水道水の確保に大きく影響してくると思っております。

このままですと、給水量に制限をかけざるを得ない状況であり、9月3日以降、30%程度の減量をして給水をしなければなりません。給水に30%の減量制限をかけると、標高の高い地域での水の出が悪くなることや、使用量が多くなる朝夕の時間帯では水が出にくくなるということが予測されます。現在、市民生活にご不便をかけてしまう可能性もある訳ですが、私としましては降雨を期待しているところであります。このように市民生活に支障が出る恐れもございますので、適切な広報活動に努めていかなければならないと思っております。給水制限があることを広報車でPRして参りますし、また、9月1日号広報よねざわにおいて折込チラシを配布する予定であります。先ほども申し上げましたように、水道水への影響は今のところ出ておりませんが、今後出てくるかもしれません。

農作物への被害状況をお伝えします。稲が水を必要とする時期は過ぎ去ろうとしておりますが、水田への水の確保については、ひとまず落ち着いたのかなと思っております。しかしながら、畑作物におきましては、水不足との因果関係を別にしましても、連日の高温が品質低下や収穫量の低下を引き起こしているという報告を農林課より受けております。また、今後の状況によっては、秋野菜の植え付けが遅れるのではないかと懸念も出ております。果樹関係においても、水不足や高温が館山りんごなどにどのような影響をもたらすのか、生育状況を見てみないと判断できない部分ではございますが、なるべく影響がなければ良いなと思っております。

続いて、市長の所感であります。今年は雨が米沢を避けて通っているという状況であった一方、降雨災害も出ている場所もありました。災害がない分ありがたいのですが、降雨が少なければ市民生活に影響を与えますので、これを教訓として、上下水道部とも打ち合わせをし、今後の水源確保にしっかりと取り組まなければならないと思っております。一つ目のご質問に対する回答は以上であります。

続いて、「9月が主会期となっているメモリアルフェスタの概要と抱負をお聞かせください。上杉鷹山入部250年の来年は、何かイベントを予定されていますか」という質問に答えさせていただきます。最初にメモリアルフェスタについてであります。今年は戊辰の役150年、あるいは直江兼続公没400回忌、また帝人が米沢で創業して100周年です。さらに、鷹山公の遺徳を偲んで開催しております「なせばなる秋まつり」も四季のまつりの一つになっております。去年は鷹山公が九代藩主に

なられて250年という年でしたが、来年は米沢に入部されて250年という年になります。その中間年である今年度を上杉鷹山公250年祭ということで、秋まつりをグレードアップしながら充実させて、鷹山公の記念イベントをしていきたいと思っております。

今申し上げた事業を、「上杉メモリアルフェスタ」と称して開催してきたところがあります。すでに直江兼続公没400回忌記念事業は、米沢直江會さんを中心に進めていただいております。また、米沢戊辰の役150年、色部長門の顕彰を含めまして、上杉鷹山公と先人を顕彰する会が主体となってシンポジウムを開催させていただきました。また、9月29日からは帝人の100周年記念ということで、記念イベントを開催する運びとなっております。内容につきましては、未来せんいアワードや市民ミュージカル「伝国座」による「Faith」の上演、記念講演、子ども向けのワークショップを検討しているところでもあります。そして、9月22日、23日の「なせばなる秋まつり」では、上杉鷹山公記念講演会といたしまして、林修先生を迎えて「教え『育つ』教育を考える」という内容でご講演いただく予定です。8月24日に講演会の前売り券を販売いたしました。9時からの販売で午前中に売り切れてしまいました。あっという間に完売してしまいましたので、これから市民の方から問い合わせもあるのだろうと思っております。9月23日には、ようざん桜の杜事業に着手して参りたいと思っております。17代御当主を通して、東京の霞会館から桜を寄贈していただくことになっております。場所は愛宕の斜平山周辺を考えております。鷹山公が雨乞いをした愛宕神社や籍田の碑がある愛宕地区であり、今は檜枯れがひどい状況でもありますので、このような状況をなくして桜公園を作ろうということで17代御当主からのご支援もいただいております。これを単に米沢市の事業としてだけでなく、市民のみなさんの実行委員会も立ち上げて、約300本植える計画を立てております。ただ、植える場所が民地でありますので、地権者の同意をもらいながら、長いスパンで植樹を進めていきたいと思っております。1年2年で簡単に桜の杜が完成する訳ではございませんが将来の米沢の基盤を鷹山公に作っていただいたということで、将来に残る桜公園にしていきたいです。大きなメイン事業として何かを建てたりということではございませんが、米沢は上杉の城下町として今日まで続いておりますので、我々はもう一度このような点に目を向け、思いを馳せながら、上杉家の歴史・文化を再認識しようと思っております。その他にも関連事業として様々なものを計画しておりますが、詳細についてはお配りしたパンフレットをご覧ください幸いです。

「上杉鷹山入部250年の来年は、何かイベントを予定されていますか」という質問についてですが、今のところ上杉メモリアルフェスタに全力を傾注しております。そして、来年の鷹山公入部250年はこれからの事業をどうするかということになってきますが、来年は市制施行130年と一緒になります。この点においては、平田東助像を米沢に迎え入れるということを中心にメイン事業として考えておりますが、鷹山公入部250年にはようざん桜の杜を充実させていきたいです。若田光一さんが10年前

に宇宙へ持って行った桜の種を植えたところ、発芽した桜が何本もあり、この桜を「きぼうの桜」として東日本大震災の被災地に植えているようです。米沢においてもこの桜を頂けないかという交渉をしてきました。その結果、山梨県北杜市にあります神代桜の直系子孫の宇宙神代桜をいただけるということになりました。この桜は旧愛宕小学校跡地にセレモニーを開催しながら植え付けをしたいと思っております。このようなことを含めて、鷹山公入部250年ではようざん桜の杜を充実させていきたいと考えておりますが、来年の事業の詳細についてはこれから検討をしていきたいと思っております。

○秘書広報課長

市長からの回答は以上でございます。質疑がありましたら幹事社を中心によくお願いいたします。

○記者

湧水について質問です。現在、綱木川ダムの貯水率は約20%ということですが、今後さらに減った場合、どのようなことが想定されますか。県との協議は行うのでしょうか。また、どのように水を確保するのでしょうか。

○市長

はい。今後、笹野浄水場へ水が入ってこなければ給水制限をせざるを得ないということですので、米沢市とするならば、使っていない井戸を掘り起こして、少しでも給水制限が緩和されるように努力をしなければならぬと思っております。また、県との協議の中で、どの程度ダム以外の取水が可能かということも検討し、しっかりと取り組んでいきたいです。このようなケースは何度かありましたが、9月以降の降雨で凌いできたということもありました。しかし、これも降ってみないと分かりませんので、すぐにとすることは難しいかもしれませんが、これを機に水源をどう確保していくかということは喫緊の課題になってきていると思います。

今のところ雨頼みということですが、ダムの水がゼロになった場合、水道水の供給について厳しい状況が出てくると思っております。逐次、県との協議も進めながら市民生活に影響が出ないように努めていきます。

○記者

使っていない井戸の掘り起こしも考えているのですか。

○市長

はい。非常時の水源としていたものが広幡町成島と南原笹野に一本ずつあります。このような水源も活用しながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○記者

それは実現可能なことなのですか。

○市長

はい。すでに、笹野周辺の水も灌漑用水として流しているということもあります。

○記者

井戸の掘り起こしというのは、どのくらいの工事でできるのでしょうか。

○市長

もともとあった井戸ですので、汲み上げる分にはそれほどかからないと思います。

○記者

新たに重機を使って掘るということですか。

○市長

それは現段階では難しいと思います。

○記者

つまり、設備自体は既にあって、使っていないだけということですか。

○市長

そうです。現存しているものです。

○記者

それは市の設備ですか。

○市長

そうです。

○記者

地下水を水源として急場を凌ぐということですか。

○市長

それだけで間に合うかという心配はあります。水量の問題もありますので。

○記者

その二つの井戸は現在水道水の方に供給しているのでしょうか。

○記者

成島の地下水は利用しているお聞きしましたが。

○市長

はい。成島の方は8月21日から供給しています。

○記者

笹野の地下水も今後は検討しているのでしょうか。

○市長

ええ。そうですね。

○記者

給水制限で現状のままでいくと9月3日から30%の減圧供給とならざるを得ないと思うのですが、さらに制限を上げる場合には30%からどれくらいの第二段階の措置をお考えでしょうか。

○市長

館山浄水場の給水区域拡大は市の判断で可能ですが、そこまでの計算報告はまだいただいておりません。面積拡大は一定程度可能になる場合も、一日の取水量がどれくらいあるのかによってその能力もでてきますが、詳細は承知しておりませんので、上下水道部の方で今後どうするかということになります。ただ、綱木川ダムの県水を受水しておりますので、その対応については県との協議になります。8月29日に綱木

川ダムの利水調整会議がありますので、そのあたりで詳細は決まるのだろうと思っております。

○記者

考えられる具体的な対策とすればかつての水源の利用ということになりますか。

○市長

当面の間はそうなります。

○記者

今回の件を教訓に水源の確保が喫緊の課題ということですが、今後このようなことに対して準備できるものはあるのでしょうか。

○市長

やはり雨が降らないと水は供給できませんので、一定程度地下水に頼らざるを得ないと思います。そうした場合、深井戸ということになってきますので、水源としての地下水確保のため、場所の選定なども含めて上下水道部に指示をしているところです。

○記者

今回の件をきっかけに新たな井戸の掘削を市では検討しているということですか。

○市長

せざるを得ません。

○記者

検討を始めたというよりもせざるを得ないということですか。

○市長

はい。上下水道部の部長にも話をしますと、この対策に精一杯で目途がついたらということでした。この夏はなんとか乗り切りたいと思っております。

○記者

館山浄水場は将来的に廃止する方針だとお伺いしましたか、議会の方では今回の件を受けて館山浄水場の大事さが分かったので、方針変更をした方が良いのではないかという議論がありました。市長はどのようにお考えですか。

○市長

私はその点が一番心配しているところでありまして、そういったことも含めて、地下水の確保もどの程度できるのかということも検討しておりますので、その状況を見ながら判断をしていかなければならないと思っております。

○記者

地下水を使う場合は、笹野ではなくて館山で浄水することになると思うのですが、地下水の利用は館山浄水場の維持に繋がっていくのではないのでしょうか。

○市長

場所によってはそうでない部分も出てくる訳ですよ。笹野の方に水を送るということも可能になってきます。具体的な計画は持っておりませんが、館山浄水場の廃止という方向性は出しておりますので、その兼ね合いの中で地下水の対応をどのように進めていくかを現在検討しているところであります。

○記者

市が新しい地下水を掘ったとして、その水をどこで浄水するかという問題が出てくると思うのですが、笹野浄水場は県の施設ですよね。市が掘った水を県に委託するという形になるのですか。

○市長

笹野には市の貯水タンクもありますので。

○記者

それは県が作った水をもらって、市民に配るという配水池でもあると思うのですが、水を作れるところはあるのでしょうか。

○市長

詳細は県との協議になると思います。

○記者

9月3日に給水が30%の減圧となった場合、山際などで水が出にくくなるということでしたが、そのような地域の住民に対する対応は考えていますか。

○市長

はい。様々な影響が出てくると思いますので、給水車を派遣するなどの対応は上下水道部で行っていると思います。

○記者

給水車を出すということですか。

○市長

今のところ問題はありますが、高い所で水が出にくくなったということになれば給水車を出すという対応をせざるを得ないということです。

○記者

先ほどの井戸の件についてですが、井戸を掘るとするのは笹野浄水場の水を減らしていくという意味合いでしょうか。

○市長

減らしていくというよりも、水がなければそのような対応をせざるを得ないだろうということです。

○記者

給水車は9月3日に必ず出すわけではなくて。

○市長

状況を見ながらです。

○記者

節水で学校のプールや市営プールの休止ということですが、そういった面での節水対策というものは何かあるのでしょうか。

○市長

広報車で各家庭への節水の呼びかけです。暑いですので水の需要もあると思います。何人かの市民の皆様から家庭での節水の取組についてお聞きいたしました。一定程

度は渇水対策にご協力いただいているのだらうと思っております。特別な対策は今のところ持っておりません。

○幹事社

その他、よろしいでしょうか。

○秘書広報課長

それでは、8月の定例記者会見を終了いたします。